※令和４年度以降入学生用

学校番号	T0301

令和５年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「家庭総合」　（実教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・人が生きていくうえで必要な知識や家庭生活にかかわる基本的な知識を身につけ、実験・実習などを通して自立に向けた技術を身につけます。
・子どもや高齢者について体験実習などを通して知識をより確実なものとします。
・現代の生活課題などを自ら見いだし、解決に必要な知識や技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身につけましょう。

２　学習の到達目標

a:人の生涯にわたる発達と営みを総合的に捉え、家族・家庭、高齢者、子どもとかかわる、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図ると共に、それらにかかわる技能を体験的に身に着つける。
b:一生を通して家庭、地域、社会などの生活から問題となる課題を想定、解決策を考え実践から評価、改善、考察などを通して論理的に表現でき課題が解決できる力を身に着ける。
c:よりよい社会に向けて、生活文化の継承や、地域の生活を主体的に創造する実践的態度ができる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族と家庭の意義、家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、消費、環境などについて知識や技能を身につけるようにする。	一生を見通して、家庭や地域、社会における生活から問題となる課題を設定し、解決策を想定し、実践を評価・改善・考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど課題を解決する力を身につけることができるようにする。	いろいろな人々と接点を持ち、話し合い、より良い社会の実現に向け、課題の解決に主体的に取り組みあるいは改善して地域社会に参画、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践する態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第１章 これから人生を考えてみよう	・家庭総合を学ぶにあたって				振り返り
		1節　自分の未来予想図を描こう 生涯発達と発達課題	a:自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や人の一生についての考えをまとめることができる。 b:人生と各ライフステージの特徴ついて知り、少子高齢化社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができる。 c:現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲もって取り組もうとしている。	プリントレポート課題	パフォーマンス課題	レポート課題 振り返りシート
		2 節　これからの人生をデザインする	a:自分自身や現在の社会状況を客観的に知り、将来を見通した人生設計への課題を見つけることができる。 b:自分の近い将来についてキャリアや生活についての設計を考え、ワークなどを用いてそれらを具体的に描いていくことができる。		レポート	パフォーマンス課題
	第2章　自分らしい生き方と家族	1　節自立と共生	a:青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 b:男女共同参画社会など、現在の社会状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。		現代社会の現状についてレポート作成	パフォーマンス課題
		2 節　ライフキャリアー	a:生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できる。 b: c:労働の意義や役割、労働時間と生活時間との関わりについて関心を持ち、現在の家族・家庭が抱える課題を見い出そうとする。	実践コーナー(バーチャル入社試験)	社会人へのインタビュー	パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

		3節　共に生きる家族	a:結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について、理解できる。 b:図表などから家族の形、家庭の在り方や役割について、また時代とともに変化した背景について読み取ることができ、現在の家族・家庭の在り方や役割について考えを深め、表現することができる。 ・家族・家庭に関する課題・問題点について、社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測し、解決へ導くための考えをまとめ、討論やレポートを通して発表することができる。 ・家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、新聞や書籍などから情報収集し、自らの考えをまとめることができる。	・グループでの話し合い、発表(家族の条件、資料読み取り)	・レポート作成 ・レポート作成(ライフイベントに必要な金額)	パフォーマンス課題
		4節　家族に関する法律	a：家族に関する法律についての知識を身につけている。 c：家族、家庭生活に法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解しようとしている。		・グループでの話し合い(選択的夫婦別姓制度)	・レポート作成(旧民法と新民法の比較) ・
		1節　高齢社会に生きる	b:高齢社会の課題やその解決に向けて、新聞記事などを分析し、自分の考えをまとめることができる。 c:高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。	・新聞記事から高齢者に関する記事をあつめる。	・レポート作成(あなたの街の年齢構成、高齢社会で気になっていること)	・パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

		2節　高齢者を知る	a:高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。 b:高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 C.高齢者へのインタビューなどで高齢者を知り、高齢者とかかわることで、高齢社会に関する課題を導き出すことができ、それをレポートなどで表現することができる。	・グループでの話し合い（高齢者の生活面における工夫や改善）	・発表（高齢者の生活場面を体験した振り返り） ・実践コーナー(高齢者へのインタビュー)	レポート作成
		3節　高齢者の自立を支える	a：日常生活の基本的な介助の方法を、介助実習を通して身につけることができる。 c:介助実習においては、積極的に参加し、高齢者の現状を把握しようとしている。	発表、自己評価（高齢者の日常生活の介助体験）	・実践コーナー（認知症の人と接するロールプレイなど）	・パフォーマンス課題
		4節　高齢者を支える仕組み	a:高齢期を支える社会的な制度・仕組みについて理解している。 ・高齢期の生活における地域社会の役割、地域福祉の重要性について理解できる。		・地域の福祉の意ついて小テスト実施 ・レポート作成（社会保障について）	・各地域福祉最も多く利用されているものをレポートする
		前期末定期考査				
後期	第3章　子どもとかかわる	1節　子どもとは	a.子どもと自分の健康についてまた将来について理解しようとしている。 b:子どもの世界について、自分の子どものころを思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもとかかわりながら、理解しようとする。 c.生命の尊さについて、自分の現在、将来と結びつけながら、学習しようとする意欲がある。	・DVD視聴(自分の子どものころの振り返りと将来に向けたもの)	・グループでの話し合い（赤ちゃんは何歳までか、アニミズムの例を出し合う)	・観察

※令和４年度以降入学生用

		2節　子どもの発達	a:子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 b:子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。	・遊び、保育者の言葉かけのロールプレー実施	小テスト	・ DVD視聴 レポート作成(子どもの発達について)
		3節　子どもの生活	a:子どもの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。 b.子どもの生活についてプリントにまとめることができる。 C:子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃ作り、お菓子づくりなどの実践活動に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持とうとしている。	・発表(子どものころの振り返り、、絵本の読み聞かせ) ・作品の制作(牛乳パック絵本づく入りなど)	・レポーと作成	・パフォーマンス課題
		4節　子どもをはぐくむ	a:命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 b:子どもの活動の様子をDVDの視聴で視聴後生命の誕生についてレポートをまとめる。 c.こども取り巻く環境について興味・関心を持ってとらえることができる。	・DVD 視聴	・レポート作成	・パフォーマンス課題
		5節　子どものための社会福祉	a:子どもの発達段階において,子どもを取り巻く人との関わり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。 b.子育てをめぐる社会的支援から色々な施設について調べまとめることができる。	・グループでの話し合い、発表(世界の子どもの未来に向けて)	・実践コーナー(地域の子育て施設や取り組みを調べる)	・パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

			c:子どもの生活や取り巻く環境、また現在の子育ての環境や、社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集しまとめることができる。	・新聞などから読み取る	・課題を話し合いまとめる	レポート作成
	第9章　消費行動を考える	1 節　消費行動と意思決定	a:様々な情報を収集しながら、自分の消費行動につて検証することができる。 b:消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。 c:自分が一消費者であることを自覚し、物やサービスの購入の在り方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。	・意思決定のプロセスを話し合う。	・自便の消費行動の振り返り	パフォーマンス課題
		2 節　消費生活の現状と課題	a：消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、契約についての知識を身につけている。 ｂ：多様化する販売方法や支払い方法について問題点や解決策を考え、判断することができる。 c.適切な契約についての知識を深め自らの学習を調整しながらぼうと努力している。	・グループでの話し合い(通信販売の問題点と対策、多様な支払方法のメリットとデメリット)	・ Cross Activity(スマートホンから生活を見る)	・プリント
		3 節　消費者の権利と責任	a:消費者の権利と責任などついて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。 b:消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。 C：消費者の安全にかかわる制度や消費者を支持する制度について自らの学習状況を把握し知識を習得し主体的に学習に取り組もうとしている。	・実践コーナー（買い物で選ぶもの）	・レポートの作成（消費者被害の事例、未成年者の権利と責任）	パフォーマンス課題
		4節　ライフスタイルと環境	a:家庭生活と資源・環境との関係についての知識を身につけている。 ｂ:消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題を見つけ、解決の方向性を判断することができる。 c.環境に関する資料などから、生活における消費行動の問題点を導きだすことができる。	・発表（ライフスタイルの見直し）、金銭感覚チェック	・独り立ちへのステップ（一人暮らしの収支を考える。	・レポートの作成（光熱費調査）

※令和４年度以降入学生用

		１節　暮らしと経済	a：家庭経済・国民経済などの仕組みについて理解でき、短期・長期経済計画の重要性を認識できる。 ｂ：現在の経済と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断できる。 c：自分の経済の長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている	・プリント	・レポート作成	・パフォーマンス課題 ・振り返り
		２節　将来のライフプランニング	a：短期・長期の経済計画にかかわる実習を通して、経済的な側面から人生設計を組み立てることができる。 ｂ：将来のライフイベントとその費用を考えることができる C:身近なスマートフォンから将来の生活にかかわるお金の支払いや注意事項について知識を習得し、思考力、判断力を身に着けようと学習に取り組んでいる。		・独り立ちへのStep（一人暮らしを始める） ・レポート作成（自分の将来を思い描く）	・プリント
		後期末定期考査				

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度